長命

〔名物六帖人事四生老禍福〕失歸（イキトラシ）五雜俎、人壽不レ過二百歲一、數之終也、故過二百二十一不レ死謂二之失歸一之妖一、

〔塵袋六〕一百二十年ノ壽命ナド祝言ニモイフハサルベキユヘアルカ如何

釋迦如來ノ出世ハ、人壽百歲ノ少出多滅ノトキ也、百歲ナルモノハスクナク、百ニ不滿ノモノハオホシ、況ヤ今ノ世ニハ勿論歟、但養生經、人生一百二十年、中壽百年、下壽八十年而竟、不レ然者皆天耳、又同經ニ、老子曰、人生大期以二百二十年一爲レ限、節度護レ之、可レ至二千歲一ト云ヘリ、此等ノ心ニテ云フ歟、莊子曰、盜跖謂二孔子一曰、人上壽百歲、中壽八十云々、

〔御文章四〕夫人間ノ壽命ヲカゾフレバ、イマノトキノ定命ハ五十六歲ナリ、シカルニ當時ニヲヒテ、年五十六マデイキノビタラン人ハ、マコトニモテ、イカメシキコトナルベシ、

〔甲陽軍鑑二品第八〕信玄公聞召、〇中略人間六十二年の、身をたもちかね、さまをかへ、色をかへ、心をぬくは盜人也、〇下略

〔總見記三〕鳴海桶狹間合戰事附義元討死事

驚津ノ城ヨリ注進アリ、敵只今驚津丸根兩城へ人數ヲ取掛候ト、追々申來ル、信長少モ騷ギ不給、敦盛ノ舞ノ、人間五十年、外典ノ内ヲクラブレバ、夢幻ノ如クナリ、一度生ヲ受ケ、滅セヌ者ノ有ベキ歟ト云所ヲ、繰返シ舞セ給フテ、〇下略

〔類聚名義抄十雜〕壽壽（俗今、耆字、イノチ、イノチナカシ、コトフキ、

〔倭訓栞中編十七那〕ながいき　長生也、長壽をいふ、或は頤を譯す、

〔雲萍雜志二〕夢窓國師の書たるものに、人は長生せんとおもはゞ嘘をいふべからず、嘘は心をつかひて少しのことにも心氣を勞せり、人は心氣だに勞せざれば、命長きごとうたがふべからずとあり、鐵枴仙人の贊に、仙人は不養生せず、腹立ず、物ほしがらず、それでなが生とあり、

〔明良洪範九〕或人ノ曰、昔ノ人ハ生來强クシテ長命也、今ノ人ハ生來弱クシテ短命也ト云、石谷士